パネルディスカッション

コロナ禍における市民マラソンのあり方、取り組みについて

中武 悌晴 （青島太平洋マラソン事務局長 レースディレクター）

【要旨】

新型コロナウイルスの感染防止のため2月後半からほとんどの市民マラソンは中止となった。特に参加者が1万人を越える大型大会は会場内やスタート前後、フィニッシュ時をはじめ多くの場面で密な状況が発生することや県外からも多くの参加があるため再開には課題が多い。

一方、参加者と受け入れる側とのふれあいを通して生まれる大きな感動、宿泊や飲食などの経済効果といった市民マラソンの持つ新たな魅力や役割を継続し、発展させて欲しいという声も多い。

政府や日本スポーツ協会、日本陸上競技連盟などがイベント再開に向けたガイダンスを提示しプロ野球やＪリーグ、大相撲、コンサートなど様々な分野で再開に向けた模索が始まっている。市民マラソンも日本陸連が声掛けし全国の市民マラソン大会による会議も始まった。そこは大会再開をテーマに情報の共有を行うと同時に互いを励ましあう場となった。

大会を再開するには感染防止対策の徹底と同時に、社会や地域の方へ安心感を与えることが重要である。その業務は多岐に及び困難を極めるだろうが覚悟をもって望むことで再開は果たせると考えている。具体的な感染防止対策案、取り組み姿勢などについて述べると共に集会ご参加の皆様へご理解と今後のご協力をお願いしたい。

【プロフィール】

中武 悌晴（青島太平洋マラソン事務局長 レースディレクター）

〔**職業**〕

プランニング オフィス ナカタケ 代表

〔**経歴**〕

宮崎市出身（現在61歳）

宮崎県立南高等学校、工学院大学建築学科卒業。

愛知県に本社を置く家具・インテリアの総合メーカー「オリバー」で企画・デザインを担当。

東京支店開発室室長を33歳で退職し、1992年にオープン間近のフェニックスリゾートにＵターン就職。

企画・マーケティング部門を通しテレビ・新聞の広告、ホテルやゴルフ場、オーシャンドームなどの様々なイベントを担当。

45歳で独立し『プランニング オフィス ナカタケ』設立。

マラソン、トライアスロンなどのスポーツイベントやホテル、病院の広告コンサルタントなどを担当。

青島太平洋マラソンでは事務局長、レースディレクターとして年間を通し慌ただしい日々を過ごす。

〔**趣味**〕

読書（村上 春樹の大ファン）

沖縄の器、仏像、音楽鑑賞（ジャズ）、オーディオ、釣り